



そら豆

そら豆は 空に向かって 豆がなります。また 腎臓の形は そら豆に似ています。皆様の 気持ちも 上を向きますように...

今治腎友会会長あいさつ



今治腎友会会長

上岡哲典

この度、腎友会会長になった上岡です。この紙面を通じて、皆様にご挨拶できることを、心より嬉しく思います。腎友会は結成30年。節目の年を迎えました。「腎友会に入って良かった」「みんなが仲間」「腎友会」と、言われるように、皆様と共に役員がひとつになり、取り組んでいきたいと思っています。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



5月に開催された定期総会の様子



発行： 済生会今治病院 透析センター
代表： 透析センター長 大本 昌樹
患者数： 235名 (6/26 現在)



臨床工学技士

大西真人



特集

エコーガイド下穿刺について

CE 新田

今回はエコーガイド下穿刺についてお話しします。透析治療を行う上で避けて通れないのが穿刺です。週に3回2本の針を刺すことは、精神的、肉体的にかなりのストレスになることと思います。また、失敗してしまい2本以上穿刺しなければならぬといった経験もあるかと思えます。失敗する原因は様々ですが、患者様にとっては、多くの針を刺されたという事、痛い思いをしたということが強く印象に残るのではないのでしょうか。

当院では、穿刺が困難な方にはエコーガイド下穿刺を施行しております。何やらベッドサイドに機械を持っていき、画面を見ながら穿刺をしているのを見たことはありませんか？それがエコーガイド下穿刺をしているところです。では、具体的にどのようなことをしているかを説明します。

まず、通常の穿刺ですが、駆血をし、浮き出た血管を触って走行をイメージします。そして片手で皮膚を引っ張り、もう片方の手で針を刺します。(図1)



図 1



四月から透析室の配属になりました松本真哉です。学生時代はバドミントンに打ち込んでおり、やる気と体力には自信があります。未熟な面も多々あり、仕事に慣れないうちは何かとご迷惑をおかけするかと思います。一日も早く仕事を覚え、患者様のお力になれるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



臨床工学技士

松本真哉



エコーガイド下穿刺について

エコーガイド下穿刺では、片方の手でエコープローブを持ち、もう片方の手の中指で皮膚を引っ張り人差し指と親指で針を刺します。(図2)



図2

次に穿刺時のエコー画像をどのように見ているかを説明します。穿刺をする時は基本短軸(輪切り画像)で見えていきます。図3で黒丸に見えるのが血管です。その少し右上に、白い点として映っているのが針の先端(白矢印)です。先端が映せたらエコープローブ針の順で交互に先に進めます。

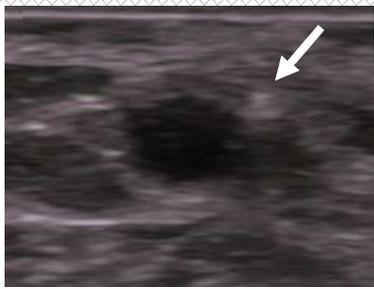


図3

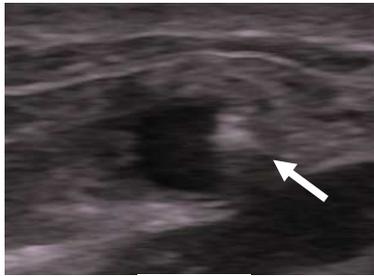


図4

図4は血管に針が当たっているところです。血管組織も一緒に引っ張られまだ完全には入っていません。(白矢印)図5で血管内に針が入りきった所です。血管の真ん中に白い点が見えるのが針です。



図5

また、図6の長軸(縦切り画像)では針を映すことができないので、少し修正したいときや走行が複雑な血管に針を進めるときに有効です。

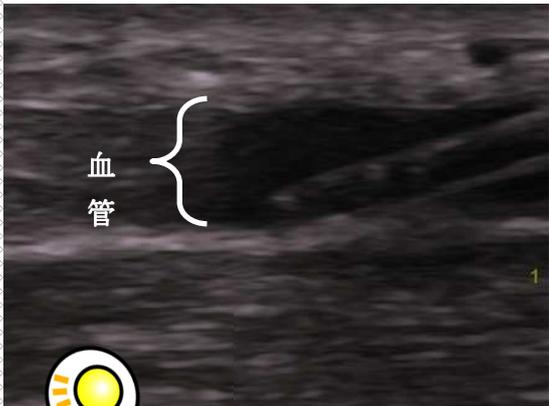


図6



このように血管をエコーで見ながら穿刺するので、ほぼ100%成功します。ただ、弱点もあります。それは浅い血管には向かないということです。浅い血管ではプローブの重みや引っ張ることで血管がつぶれてしまい、うまく映せません。

導入当初では習得している者が2名しかいませんでしたが、現在では6名が習得しています。技術の差はありますが、日々スキルアップと共に患者様のストレス軽減に向け努力しています。熟練度により技術差があることは、ご容赦していただければ幸いです。

腎友会総会に参加して

5月に開催された患者会「腎友会」の総会に参加させていただきました。愛媛県では透析患者様は、当然のように医療費の控除が行われていますが、全国的にみても、これは恵まれている状況であると言えるそうです。署名を集め、県や国にその必要性を強く求めてくれている団体が「腎友会」であるという事を、強く感じました。私たち医療従事者は日々の治療の援助を行っていますが、生活の厳しさや辛さは当事者である皆さんでしか理解り得ることが出来ません。是非「腎友会」の活動に興味を持って、参画して頂きたいと思えました。

Ns.山田み

